

令和4年度病害虫発生予報第1号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
	赤かび病	並	やや多
ばれいしょ	疫病	並	並
	アブラムシ類	少	少
	ジャガイモガ	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	並	並
	コナジラミ類	やや多	やや多
いちご (本圃)	灰色かび病	少	少
	ハダニ類	並	やや多
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	ミカンハダニ	やや少	やや少
なし	赤星病	少	少
	黒星病	少	少
	アブラムシ類	少	少
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	少	少
	クワシロカイガラムシ	やや少	やや少

【発生予報】

本文の()内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(大麦 発生を認めない、小麦 発病茎率0.0%、発生圃場率0.8%)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(大麦 発生を認めない。小麦 過去10か年平均 5.5%)。

2. 赤かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 開花期(大麦では蒴殻抽出期)が感染に好適な気象条件であった。

エ 向こう1か月の気温は高く、降水量は並または多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤の種類によっては、麦種ごとに農薬使用基準が異なる場合があるので、使用にあたっては収穫前日数及び使用回数に特に注意する。

ばれいしょ

1. 疫 病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.1%)。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は0.4%(6.4%)、発生圃場率は8.3%(44.3%)であった。

イ 黄色水盤トラップ(雲仙市：中山間営農研究室調査)では、トラップ設置(3月上旬)から成虫の誘殺が確認されているが、平年(過去5か年平均)より少ない状況で推移している。

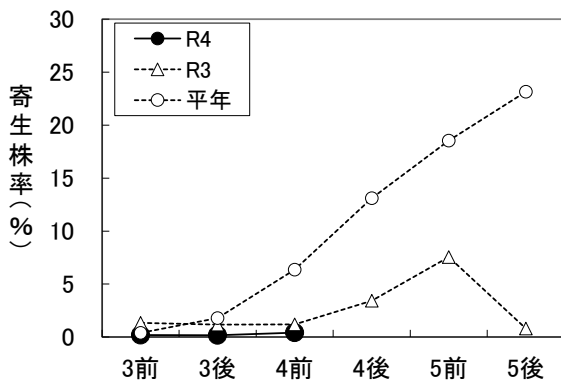


図 アブラムシ類の寄生株率の推移

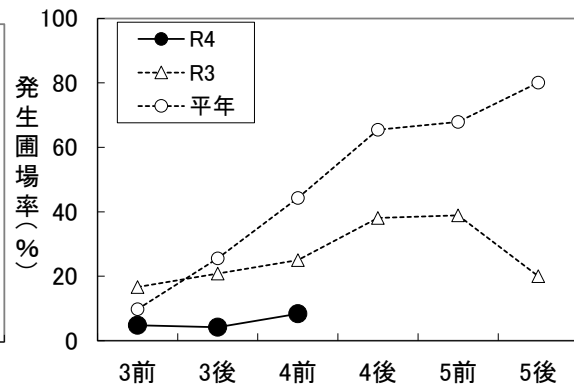


図 アブラムシ類の発生圃場率の推移

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(24筆)の結果、被害株率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(1.0%)であった。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.8%(0.2%)、発生圃場率は25.0%(15.6%)であり、一部多発圃場が見られた。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病果率は0.4%（0.3%）、発生圃場率は16.7%（16.7%）であった。発病葉率は0.5%（過去9か年平均1.0%）、発生圃場率は16.7%（同 29.6%）であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は7.8%（1.7%）、発生圃場率は41.7%（37.5%）であり、一部多発圃場が見られた。

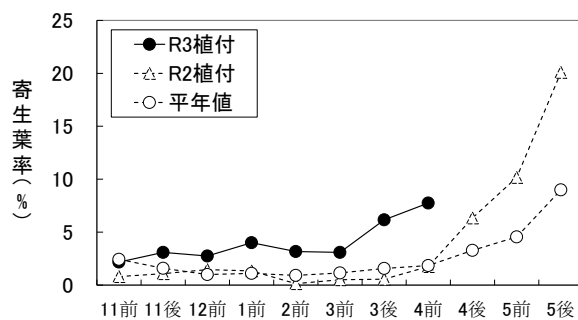


図 トマト コナジラミ類 寄生葉率

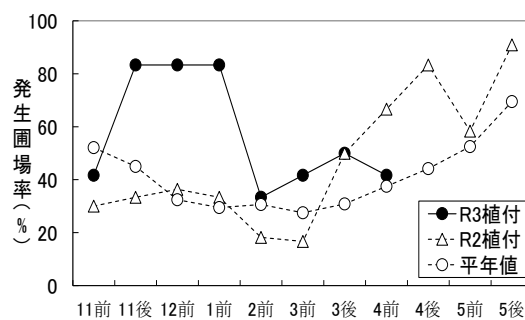


図 トマト コナジラミ類 発生圃場率

(3) 防除上注意すべき事項

ア 黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P186～189の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避けローテーション散布する。

ウ コナジラミ類は葉裏に多く寄生しているのので、かけむらがないように丁寧に薬剤散布する。

エ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

オ 施設内の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

カ 収穫終了後はハウスを密閉し、蒸し込みを行いハウス内に残存するコナジラミ類を殺虫し、ハウス外への分散を防ぐ。

いちご

1. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（27筆）の結果、発病果率は0.0%（0.3%）、発生圃場率は3.7%（21.6%）であった。

2. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 4月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生株率は18.3%（11.7%）、発生圃場率は55.6%（59.9%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が下葉の裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

イ すでに多発している圃場では1回の散布のみでは、薬剤の付着ムラ等で効果が不十分になる場合があるので効果を確認しながら数回散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P216～219の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤の連用を避け、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

エ 天敵を導入している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤を散布する。ただし、ハダニが多発している圃場では、天敵への影響は考慮せず効果の高い薬剤を散布する。

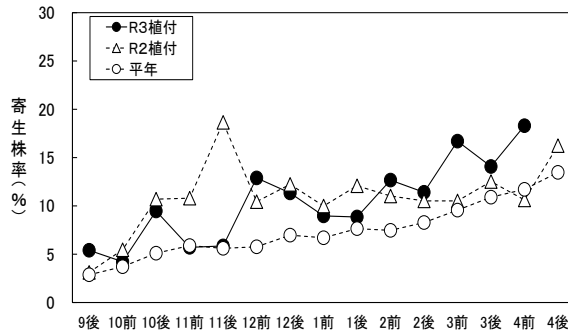


図 いちご ハダニ類 寄生株率

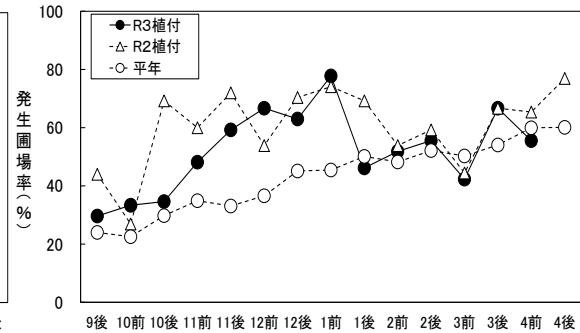


図 いちご ハダニ類 発生圃場率

3. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（27筆）の結果、寄生花率は5.5%（過去6か年平均7.2%）、発生圃場率は59.3%（同70.1%）であった。

かんきつ

1. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率は0.8%（3.5%）、発生圃場率は11.1%（30.2%）であった。

なし

1. 赤星病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（発病葉率0.0%、発生圃場率3.1%）。

2. 黒星病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均発病葉率0.0%、発生圃場率0.8%）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア スピードスプレーヤーで散布する場合は全列走行とし、園の周囲等で薬液が到達しにくい場所は手散布を併用する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P410～411の「作用機構による分類（FRAC）参照」）の薬剤を連用しな

い。

ウ 発生した葉や幼果は除去し、園外へ持ち出して適正に処分する。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生新梢率は0.1%（0.3%）、発生圃場率8.3%（20.8%）であった。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 1月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は平年より少ない（0.0頭/m²、平年 0.4頭/m²）。

イ 県予察圃場に設置したフェロモントラップにおいて、4月2半旬にチャバネアオカメムシの飛来を確認した。

(3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップへの誘殺が確認されているため、びわ、なしなど果実のある園地へ飛来するおそれがあるので、園地をよく観察し発生が確認される場合は防除を行う。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生葉率は2.5%（2.3%）、発生圃場率は53.3%（37.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P430～433の「作用機構による分類（IRAC）参照」）の薬剤を連用しない。

ウ 薬剤散布に当たっては使用時期、使用回数等を確認し、使用基準を遵守する。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（15筆）の結果、たたき落とし虫数（5回×4か所当たり）は0.9頭（3.1頭）、発生圃場率は26.7%（64.9%）であった。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月前期の巡回調査（15筆）の結果、寄生株率は1.4%（4.5%）、発生圃場率は26.7%（40.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫第1世代のふ化盛期は、平年並～早いと予測される（表）。

イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、ふ化盛期が早まる可能性があるので注意する。今後の予測は当所のホームページ

で随時更新するので参考にする。

ウ ふ化後の幼虫が1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると、薬剤の効果が低下するので、ふ化盛期（50%ふ化卵塊雌率が半数となった日）～ふ化盛期5日後までに防除する。現地でふ化状況を調査している場合は、その調査に基づいて防除時期を判断する。なお、同一地区内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なると、ふ化盛期が前後する場合がありますので注意する。

エ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

オ 収穫中の園では、収穫終了後に防除を実施する。

表 第1世代ふ化盛期予測日（4月15日現在）

地区名	標高 (m)	令和4年	令和3年	令和2年	平年 (過去10カ 年)
東彼杵町太の原	360	5/11	5/10	5/22	5/20
五島市上大津	77	5/10	4/24	5/10	5/8

※予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法（農林技術開発センター茶業研究室）」により、東彼杵町太の原（農林技術開発センター茶業研究室による測定値）、五島市上大津（アメダスデータ）で予測した。なお、4月15日以降のデータは平年値を用いた。

【参考】

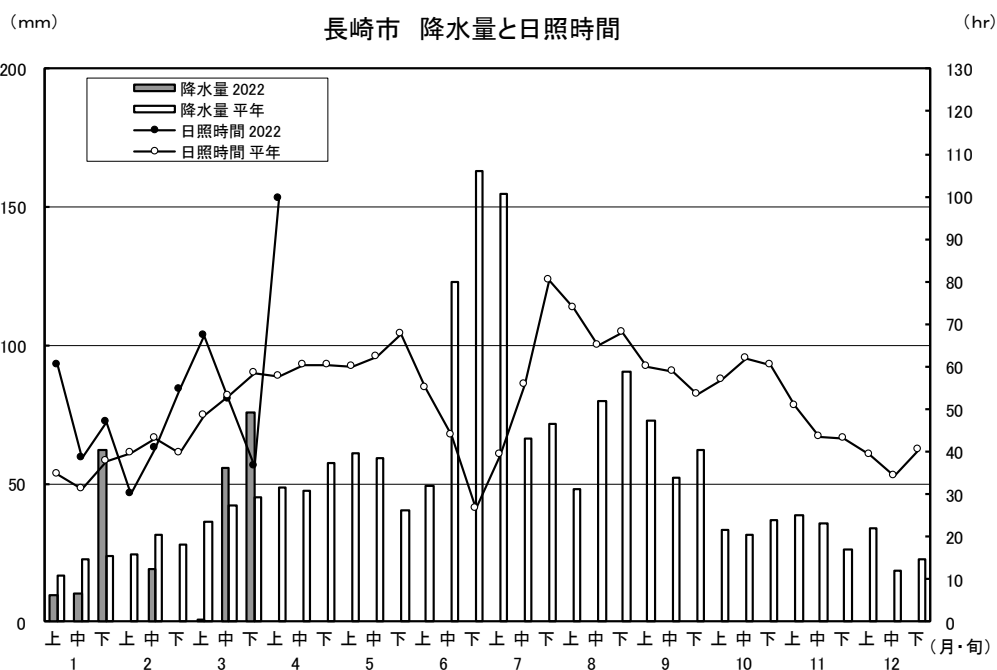
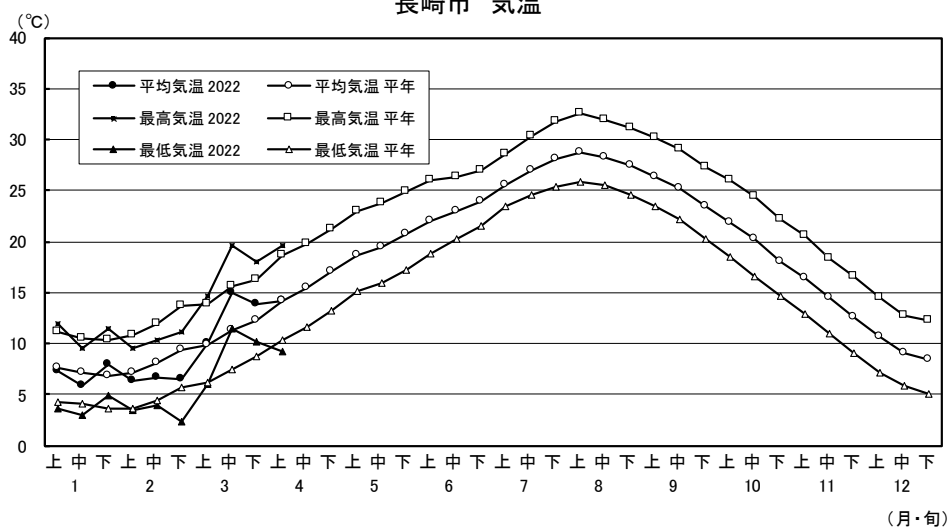
(令和4年4月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過 (長崎地方气象台)

長崎市 気温



- 長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>
- この情報に関するお問い合わせ
長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室
(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

